

# 本気で校歌を歌いたい！

令和8年2月24日

## ミラノ・コルティナ冬季オリンピックと、人にとっての歌

ミラノ・コルティナ五輪での活躍が日々報道されている。フィギアスケートの中井さんのような高校生（17歳）年代から20代前半のアスリートが、世界という舞台上、自分と向き合っていることは、表彰台に乗る乗らず関係なく、人に感動を与える。一方で、世界という舞台でなかったとしても、私は、高校生たちが自分と向き合って、自分が今できること、今やりたいことを毎日表現していることはとても尊いものであると感じている。

多くの人が知っているように、オリンピックは、教育改革に強い関心を持つ教育者、思想家のピエール・ド・クーベルタンが、フランスの普仏戦争敗戦後に身体教育の必要性を研究し、スポーツは、人格教育に有意義であると結論を得たところから始まる。そこで、スポーツで、「教育と平和を実現しよう」と1894年に組織が作られた。そのため、個人で金メダルとる場合も、国を代表して参加し、国同士が競い合い、終わった後は互いに国を讃えるために、国民全体の成果として国歌が流れることになっている。では、なぜ、歌を歌うのか。これは、「同じ言葉、同じリズム」を共有することは、儀礼効果（心理学）があり、集団アイデンティティを作りやすいという「人」ならではの文化的特徴があるようだ。

私は、ものごとには、常に理想や、理念、想い、思いなどが込められていると思っている。本校は、「覇気・信念・明朗」を校訓とする。この校訓には、教育、生徒に対する思いがあるとすれば、その象徴である「同じ言葉、同じリズム」をすべての生徒に共有してほしい。ミラノ・コルティナオリンピックを見て、富士宮北高校が好きになればなるほど、宮北を象徴する何かを、ここでは「歌」を、本気で歌えることが、社会に出てから大切なものを持った「人」になる気がするのである。もうすぐ、3学期も終業式、校歌を心の底から歌える人になろうよ。

## 富士宮北高校の校歌 作詞 相馬御風 作曲 辻順治

富士宮北高校の校歌は、日本の校歌作詞家の中では有名な相馬御風作詞である。チャッピーによると、相馬氏は、全国でも数多く（300弱）の校歌を作り、学校が立地する地域や風土を歌い込むところに特徴があるようだ。また、作曲は、辻順治である。Wikipediaによると教員から陸軍軍楽隊を経て、その後、全国で校歌作曲家として活躍したとある。いずれも、昭和初期の代表する作詞家、作曲家に依頼したということ、本校も地域の中心となる学校であったのだろう。ちょっと、校歌を見てみよう。言葉を一つ一つ調べてみると面白い。

玲瓏高き:玲瓏とは、宝石が透き通るように美しく輝く様子を言う。人に例えると清らか、気品があると言うときに使う。

富士の嶺:富士山の頂。校歌では、玲瓏高きと繋ぐことで、高い理想を象徴する言葉として使う。

波路:海の道。海の上の航路。広く広がるという意味に使われる。

はるけき:はるか遠い。校歌では、道とはるか遠いが連動して、広い世界へ進む未来を表す言葉となる。

ひばりが丘:新興住宅地に多くつけられた地名、鳥（ひばり）が多く生息し、明るくのどかな場所である。

学び舎:校舎。若人:若者。意気に燃え:やる気や誇り、何か強い気持ちを表すときに使う。校歌では、若者が何かを成し遂げようとしている状態を表す言葉となる。

勉め:一生懸命努力すること。はげみて:励むの動詞形である。努力していくの意味。踏みいづる:古い日本語の表現であり、踏みが足で踏むことであり、出ずるが出ていくことであることから、前に進んでいくことを示している。したがって、校歌では、一生懸命努力して、努力して、前に進んでいくこと、つまり自らの行動を表す言葉であり、昨年の流行語の働いて働いて働いて…と繰り返して力強さを出していることと同じ言い回しといえる。

ああ:感嘆符。人生:人生。朝ぼらけ:本来は、夜が明けて、だんだん空が明るくなってくる時間帯をさす。校歌では、希望を持っている状態を示している言葉である。こうやって調べると何だか思いが乗ってくる（2番は、一人ひとり調べてみようよ。）さあ本気で、校歌を「共有する言葉、リズム」として、大きな声で歌おうよ。

## 富士宮北高校の校歌と見える景色

さて、校歌の歌詞を一つ一つ分解していると、ふと思うことがあった。玲瓏高き富士の嶺はおそらく、富士山を見上げ、思いを馳せたのだろう。1月のある冷えた日の写真では、頂はもちろんのこと、裾野の木々の白さまではっきりとわかり、その荘厳さに圧倒された(写真1)。また、校地の南東の端あたりから北西を眺めると、遠くにハケ岳の稜線がわずかに見え、これもまた美しい(写真2)。

それでは、「波路はるけき駿河湾」はるか遠くに、海の道は見えただろうか。

簡単に言えば、右のように標高点から見たときに、地球の丸みを考慮しても直線で眺めることができれば、見えることになる。本校には、地図でいう水準点(156.7m)がある。ここを基準として、調べてみてほしい。これには、国土交通省国土地理院のホームページから「地図・空中写真・地理調査」を調べ、そこで次のように進むと良い。

- (1) 地形図で「静岡県立富士宮北高校」を入力する。
- (2) ツールから「断面図」を選ぶ。
- (3) 地図上で、観測点(始点)をクリックする。
- (4) 海側のどこかの場所(終点)をクリックする。
- (5) 断面図が出てくるので、始点より高い何か(場所)が存在しなければ、理論上は始点から終点は見えることになる。(以下の断面図)

この断面図から言うと、学校から南東の方を眺めた時に5kmほど先(富士市内)に小高い丘状の場所がある。そのため、海を見るためには、田子の浦あたりではなく、もっと

富士宮北高校から南東を見た断面図

はるか遠い、駿河湾の真ん中あたりが見えた可能性が高いと考えられる。とすると・・・

校歌の作詞者は、ちゃんと校舎に立ったのかな？

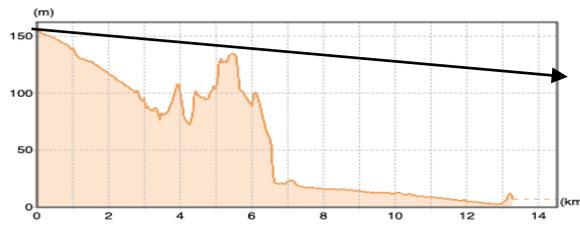


写真1



写真2



## 興味が湧いた全国高等学校 AI アスリート選手権大会「シンギュラリティバトルクエスト」

2026年2月1日この大会の決勝審査が行われた。5競技が行われて、それぞれ優勝チームが発表された。私は、どのように点数を獲得していくのか、説明を聞いていてもほぼわからない。AI アスリートは、プログラムとの向き合い方、自らに対するストイックさ、能力の高さ、そして、チームでの協力体制など見ていると、運動・スポーツのアスリートと全く大差はない。ここでも **AI が高校生の作った歌を歌っていた!** (<https://singularitybattlequest.club>)

高校生の柔軟さ、友とともに何かを行う協働体制、青春。全国の様々な高校生は、部活動として活動し、社会課題をAIの力で解決しようとしているチームもあり、本当に面白い。ゆるテク女子会などもあり、決して男子だけが得意とする分野ではないテクノロジーの新たな側面も教えてくれる。そもそも、この「シンギュラリティバトルクエスト」は、未来を創造する素質者・能力者として、総合的な AI/ICT スキルを磨き上げた「AI アスリート」となる高校生を

発掘・育成するために開催され、頂点を決める競技大会である。AI アスリートとは、ソサイティ5.0が社会実装された超高度化情報化社会において、必須となる知識・スキル・チームワークを探究・研鑽する卓越したデジタル人材を言うようだ。主には、高校のパソコン部、ロボット部、プログラミング部、情報処理部、e スポーツ部など、ギーク系高校生を対象としている。本校では、現在、**ビジネス部を中心に、DX ハイスクールとして、プログラミングを学び、「マイクロビット」を動かすことを始めている。**どんどん成長しているようで、将来的に、このような大会に参加し始めるのではないかと期待している。

社会に出ていって、**どんどんチャレンジできる学校になろうよ。**

